



スラロームルールの改正

JPWA 発足に伴い、スラローム競技のルールを改正することになりました。

内容 プロクラスにおけるエキップメントに関して

22-2.

ダウンウインド

ダウンウインドは全てオープンとする

に関する項目を

22-2 道具の規制

J P W Aにおけるスラローム競技のプロクラスにおいて、選手は3本のボード、6枚のセイルで1シーズンを戦わなければならない。また、選手は、自身の名前で登録した道具を使用しなければならない。ただし、JPWAにおいて開催されるアマチュアクラスはその限りではないが、プロクラス参加のアマチュア選手には適応される。

ボードの幅は85cmより広くてはならない。

セイルは10.0㎡より大きくてはならない。

ボード、セイルはJ P W Aの登録プロセスによって登録されなければならない。また、その時々のJ P W Aスラローム委員会の判断によって詳細は変更される。

22-3 道具の登録

- (a) 選手はカスタム、プロダクションを問わず3本のボードを登録できる。登録されたボードはどれを使用してもレースに参加できる。
- (b) 選手は6枚のセイルを登録できる。登録されたセイルはどのセイルを使用してもレースに参加できる
- (c) 登録はその年の最初の大会のレジストレーション及び事前にスラローム委員会にて道具の登録ができる。また、この時期に登録された道具は残りのシーズンすべてで使用する道具とする。仮に選手がその時期に限度に満たない数の道具を登録した場合、その後の大会での追加の道具登録を行うことはできず、1シーズンを規定に満たない道具で戦わなければならない。ただしアマチュア選手は追加登録を認めるものとする。
- (d) 登録された道具はスラローム委員会または大会関係者によってスタンプまたはマークを付けられる。
- (e) 登録予定の道具をその年の最初の大会までに持ち合わせていない場合、モデル名、サイズのみ登録をすることができる。ただし、道具が手元に届き実際に大会で使用する場合は、使用前に速やかにスラローム委員会にてスタンプまたはマークを付けなければ使用できない。

22-4 道具の交換

- (a) ボードやセイルが正当な理由で破損した場合、スラローム委員会は同一のボードや

セイルへの交換を許可する。ボードやセイルの交換はスラローム委員会のみが承認できるものとする。ボードやセイルは可能な限りリペアーをして使用するものとする。使用不能に陥った場合で同一モデルのボードやセイルが見つからない場合、スラローム委員会によって類似するタイプやサイズの道具が認められた場合、代わりに使用することができる。

- (b) 同一のプロダクションのボードやセイルは詳細な調査なしに大会の合間に交換することができるが、交換した旨をスラローム委員会に報告し、使用する大会の時に記載されたシリアルナンバーを登録するとともにスタンプまたはマークを付けなければならない。
- (c) シーズン中にボードやセイルのスポンサーに大きな変更があった場合、選手は新しいスポンサーの道具へ自身の道具の変更を申し出ることができる。
- (d) シーズン途中で翌年度モデルが届いた場合、道具の入れ替えを申し出ることができる。ただし、シーズン途中で入れ替えた場合、翌シーズンも今シーズン途中で入れ替えた道具を使わなければならない。
- (e) アマチュア選手に限り同一サイズのボードやセイルは大会ごとに入れ替えをすることができる。ただし、入れ替えをする場合速やかにスラローム委員会に届出を行い承認された場合スタンプまたはマークを付けた後使用することができる。

22-5 道具のリペアー

破損した道具のリペアーは登録されたボードやセイルの元のスペックと全く同じにリペアーされなければならない。ボードやセイルが元のスペックと異なった状態にリペアーされて使用した場合は、未登録ボード使用とみなしペナルティーの対象となる。

22-6 道具の調査およびペナルティー

道具の調査はスラローム委員及び大会関係者によって行われる。選手は大会進行中のいかなる状況でも調査の依頼を受けなければならない。調査を拒否した場合その大会において失格とされる場合がある

登録されている道具や詳細が登録道具に適應しない道具を使用した場合その大会において失格処分とする。また、プロ選手においては失格となり罰金五万円とする。

23 ウェイトジャケット

ウェイトジャケットを使用する場合、レジストレーション時に前もってスラローム委員会もしくは大会実行委員によって検査を受けなければならない。検査を受けてないウェイトジャケットを使用した場合そのレースは失格処分とする。ウェイトジャケットはそれ単体で浮かなければならず、測定は水深 30~50 センチほど沈めた状態から手を離し測定を始め、自然に浮かび上がるものでなければならない。

なお、沖縄カップは 08 年度を含む変則的な開催のため変更に関する項目のすべてで適應されません。

以上

2月19日 JPWA スラローム委員会